

# 四門会

第 20 号 2012 年度

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室



平成 24 年 12 月

## 目次

巻頭言	肥塚 泉	3
同門会会長就任のあいさつ	岩武博也	4
医局長あいさつ	宮本康裕	5
新人医局員あいさつ	阿久津征利	6
医局報告 医局構成		7
外来担当表		8
出張病院および外勤病院連絡表		9
専門外来紹介		
めまい	深沢雅彦	10
頭頸部腫瘍	斉藤善光	11
聴覚	劔持 睦	12
喉頭・音声・嚥下	春日井滋	13
中耳・副鼻腔・アレルギー	斉藤 晋	14
関連病院だより		
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科	岡田智幸	16
川崎市立北部多摩病院	堤康一朗	17
横浜総合病院	田中泰彦	18
医療法人 社団亮正会 総合高津中央病院	山口央一	19
麻生病院	矢野祐之	20
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター	佐々木祐幸	21
医局業績 論文：2011年4月～2012年3月・文部科学省研究費補助金		22
国際学会探訪記 第27回国際バラニー学会に参加して	岡田智幸	25
いざトロントへ	春日井滋	26
平成23年度同門会理事会議事録・会則		27

## 巻頭言

肥塚 泉



「2012年 雑感」

今年も早いもので、巻頭言を書く季節となった。2012年は、日本中を震撼させた、オウム真理教事件で指名手配されていた犯人逮捕の第一報から始まった。1月1日、警視庁は一連のオウム真理教事件のうち、公証人役場事務長逮捕監禁致死事件実行容疑などに問われて逃亡中であった平田信容疑者を、出頭先の警視庁丸の内警察署にて逮捕した。また6月3日、逃走犯の1人である菊地直子容疑者が逮捕された。6月15日、最後の逃走犯であった高橋克也容疑者が逮捕された。これにより、一連の事件の特別手配犯は全員逮捕された。そして9月24日、ついに、オウム真理教事件の全捜査が完全に終了した。7月27日から8月12日まで開催された、ロンドンオリンピックでの日本人選手たちの活躍によって、日本中が祝杯ムードに浮かれていた矢先、竹島や尖閣諸島などの領土問題で、日本全体が大きく揺さぶられた。これに伴って中国や韓国における日本の経済活動や観光産業等々に多大な影響が出始めている。そんな中、京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞でノーベル医学・生理学賞を受賞された。日本人のノーベル医学・生理学賞受賞は、25年前の利根川進博士以来2人目という快挙であった。科学立国日本の面目躍如となる、大変喜ばしいニュースであった。今年も、good news と bad news が入り乱れて錯綜する、大変な年であった。私ども聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科でも大小さまざまな出来事があった。ある意味2012年は、波乱万丈の年であった。しかしながら「災い転じて福となす」、困難に立ち向かう医局員たちの強い意志と、行動力を、随所に垣間見ることが出来た。本年初頭は、本当に大変であったが、「終わりよければすべてよし」、2012年は医局にとっては良い年であった、これが、この巻頭言を書いている時点での私なりの感想である。

巻頭言を借りて、四門会会員、医局員諸君一同に、深く感謝の意を申し上げる。

## 四門会会長就任あいさつ

岩武博也

四門会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には日頃より、四門会発展の為に格別のご高配を賜り、誠に有難く心より厚く御礼を申し上げます。

昨年の理事会において肥塚 泉前会長の後任にご指名を受け、同日開かれました総会におきましてご承認をいただきました8回生の岩武博也でございます。会員の皆様にひと言ご挨拶申し上げます。

初代会長の加藤 功先生、前会長の肥塚 泉教授に続きましてはたして私のような一開業医である若輩者が四門会の会長という重要な任務を遂行出来るかどうか不安でした。しかし、開業して10年が経ち、多くの患者様に来院していただき微力ながらも地域医療に貢献出来る医師に育て上げてくれました我が聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に少しでも恩返しが出来ればという思いでこの大役をお引き受けすることを決意し、あらためて責任の重さに身の引き締まる思いで一杯であります。

この四門会が発足したのは私が医局長を務めている時で会員名簿や会則作りにも携わって参りました。そして現在も月1-2回ですが医局にお邪魔して外来のお手伝いをさせていただいていることもあり現役の若い先生方とも話をする機会も多く、OBと現役の橋渡しをして会員相互の交流と親睦を深めつつ更なる四門会の発展に努めて行くというのが私に科せられた任務と思っております。四門会も既に100名以上の先生方が全国で活躍されているのですがここ数年総会の出席者の少なさに一抹の寂しさを感じておりました。今後は少しでも多くの会員の皆様に参加していただけるような企画も考えて行きたいと思っております。

さて、会員の皆様も既に御存知のことと思いますが肥塚 泉先生が平成24年5月より日本耳鼻咽喉科学会の理事に就任いたしました。これは四門会といたしましても誠に光栄で名誉ある事でございます。そして平成26年11月に開催される第73回日本めまい平衡医学会総会の会長にも決定いたしました。この学会は以前、竹山 勇先生（第50回）、加藤 功先生（第58回）も会長を務められており、我が大学として3回目の主催という事になります。今回も盛大に開催されかつ有意義な学術講演会となりますよう四門会としても最大限の協力をしていかねばならないと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げますと、同時に、四門会のさらなる発展に向けてご支援ならびにご協力をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

## 医局長挨拶 医局長生活を振り返り

医局長 宮本 康裕

早いもので、もう今年も年の瀬を迎えようとしています。医局長を務めさせていただき、もう4年目になります。

この4年間で振り返ると、本当に色々なことがありました。ただ、医局長として何ができたかと振り返ると、なかなか思い浮かぶことがありません。

医局長の仕事は、医局員のスケジュール管理などの総務的な仕事、学会・雑誌等のアンケート調査に対する報告などの広報的な仕事、新入医局員獲得のための医局アピールおよび学生指導など多岐にわたります。日々、スケジュール管理の抜けが無い様にするだけで終わってしまいました。

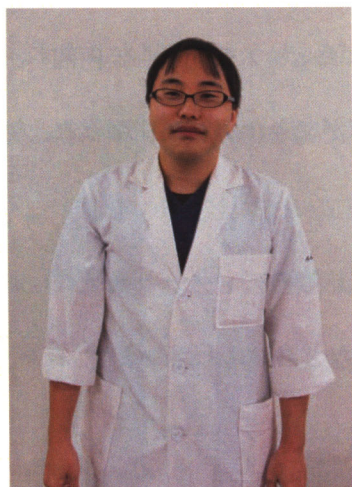
医局長の仕事の中で一番大事な仕事は、いかに耳鼻咽喉科の面白さを学生に伝えアピールし、卒後耳鼻咽喉科医を志し医局に入局していただくことだと考えています。自分が、医局長の間に入局していただいた医局員は、平成22年に川上猛敬先生、平成23年に角谷知泰先生、平成24年に阿久津征利先生の3名の先生を迎えることができましたが、理想を言うと、もう少し欲しかったなと思います。途中で、どうすれば耳鼻科に興味をもち入局を考えてくれるんだろう、他にどんな方法や努力をすればいいんだろうと迷宮入りしそうにもなりました。

今は、人数的にも厳しい状況が続いておりますが、何とかより良い医療が提供できる様に臨床面での底上げ、また、より耳鼻咽喉科の魅力が伝わるようなカリキュラム作りやアピール方法の検討、また学術面では学会報告や論文投稿が、医局全体として増加していくように微力ながら尽力していきたいと思っております。

来年度から、新しい医局長にバトンタッチしますが、これからも医局のために自分に出来る限り頑張っていきたいと思っておりますので、同門会の先生方にもこれまでと変わらないご協力を頂ければと思います。

## 新入医局員あいさつ

阿久津征利



はじめまして。この度入局させて頂きました平成 22 年度聖マリアンナ医科大学卒業の阿久津征利と申します。

自宅は東京都江戸川区で整骨院を開業しており姉は整形外科医に、兄は家を継ぎ、私はできれば違う科に進みたいと考えており、幼少の頃よりお世話になっている耳鼻咽喉科を学生の頃より考えておりました。

研修医 1 年目の頃は、内科、救命、麻酔科が必須のローテーションになっていますので、自然と全身管理に興味を持つようになり内科も考えるようになりましたが、耳鼻咽喉科を回らせていただいた際に指導して頂いた先生方に耳鼻咽喉科の面白さを教えていただき入局を決めました。

現在は、本院にて病棟・外来業務を中心にみなさんのご指導を受けながら、日々の疑問を一つずつ解決しております。手術は、主に扁桃摘出、鼻内手術を中心に研鑽を重ねており、多くの壁にぶつかっております。当直は 10 月より一人当直となり、先日も緊急気管切開の症例など肝を冷やす場面にも遭遇し、不安な日々を過ごしております。

まだまだ未熟者ですが、今後とも御指導・御鞭撻の程を宜しくお願い致します。

## 医局構成

平成 24 年 12 月 1 日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
准 教 授	岡田智幸・堤 康一郎・渡辺昭司
講 師	漆畑 保・佐々木祐幸
助 教	宮本康裕（医局長） 赤澤吉弘・春日井 滋・齋藤 晋・中村 学・平野佳美・俵道 淳・深澤雅彦・三上公志・向出光 博・矢野裕之・山口央一
任期付助教	角谷知泰・川上猛敬・齋藤善光
大学院生	阿久津征利
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔・木下裕継・工藤典代・釘持 睦 佐藤成樹 新谷敏晴・高橋 姿・武田憲昭・中村 正・日比野 浩
登 録 医	及川貴生・北島明美・宮部 聡
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・新橋 涉・平沼良一・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	北山 愛

### 関連病院

麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、島田総合病院、国立病院機構横浜医療センター、総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、横浜甞生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

(50 音順敬称略)

外来担当表（平成 24 年 12 月現在）

		月	火	水	木	金	土
午	初診	肥塚 赤澤	齋藤 (晋)	渡辺	深澤	齋藤 (晋)	交代制  (1 診)
	再来	春日井 三上	赤澤 交代制	三上 齋藤(善)	齋藤(晋) (阿久津)	春日井 齋藤善	交代制 (2 診)
前	特殊		腫瘍 渡辺 三上 齋藤 (善)	喉頭音声 赤澤 春日井	喉頭音声 岩武(1.3)	めまい 肥塚 宮本 深澤  腫瘍 渡辺	
午後				鼻・副鼻腔 アレルギー 宮本 深澤 阿久津 宮部(2.4)	聴覚 宮本 齋藤(晋) 阿久津 木下 鈿持 (2.4.5)		



## 出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田智幸 俵道 淳 向出光博	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	堤康一郎 中村 学 川上猛敬	044-933-8111	044-930-5181
国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	田中泰彦 角谷知泰	045-902-0001	045-903-3098
麻生総合病院	矢野裕之	044-987-2522	044-988-0878
高津中央病院	山口央一	044-822-6121	044-822-7995
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
秦野赤十字病院	外勤医師	0463-81-3721	0463-82-4416
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
横浜甞生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

## 専門外来の紹介

### 《めまい外来》



肥塚 泉、宮本康裕、深澤雅彦

私は、一昨年度よりめまい外来（金曜日午前中）を担当しています。肥塚教授と宮本先生とともに専門外来を行っています。

本年度も、当外来への紹介患者様が増えています。当院では、前庭代償に焦点をあて、その臨床研究、基

礎研究に力を入れています。外来診療におきましては、前庭代償の効率を高めるリハビリの検討のため、まずめまい患者における当科独自のリハビリテーションを検討することに力を入れています。現在、めまい・平衡機能障害の客観的評価法の検討という臨床研究テーマのもと、さまざまなリハビリテーション方法を組み合わせ、その効果判定をアンケート調査、温度眼振検査、重心動揺検査、歩行解析検査などを用いて、客観的に評価できるかを検討中です。

また、他施設になく本大学にある回転椅子を用いることで、耳石機能検査が可能であることを生かし、OVAR（off-vertical axis rotation）に独自の刺激を加えることで、前庭代償と体性感覚の関係性をみる臨床実験（三上公志，鈴木一輝，宮本康裕，深澤雅彦，肥塚泉．体性感覚入力半規管一眼反射に及ぼす影響. *Equilibrium Res*, 2009; 68(1): 28-33 掲載、宮本康裕，鈴木一輝，三上公志，深澤雅彦，肥塚泉．体性感覚入力半規管一眼反射に及ぼす影響. *Equilibrium Res*, 2010; 69 掲載）が行われています。

実際の臨床において行なわれている良性発作性頭位めまい症患者に対する治療として、Epley 法、Semont 法、Lempert 法など一般的な頭位治療（浮遊耳石置換法）を施行するだけでなく、その他の理学療法として、Brandt-Daroff 法、ROM（rolling-over maneuver）法を指導しています。（A Kitajima, S Sato, K Mikami, M Mukaide, I Koizuka. Does vertigo disappear only by rolling over? Rehabilitation for benign paroxysmal positional vertigo. *Acta Oto-Laryngologica*, 2010; 130: 84-88 掲載）

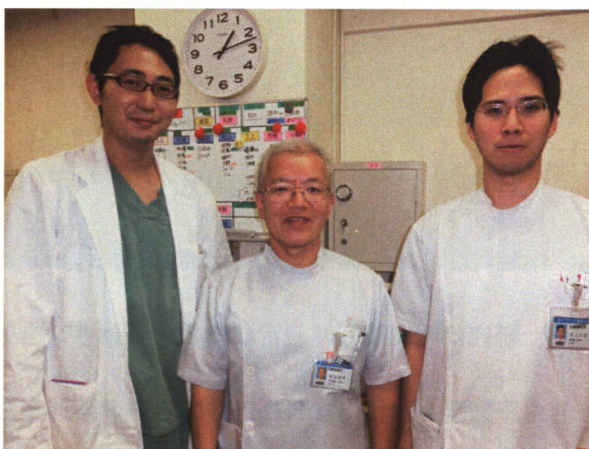
メニエール病患者の発作予防対策の基本として、薬物治療を中心に生活指導を行っており、保存的治療で発作予防が困難な場合、選択的前庭機能破壊、内リンパ嚢開放術を選択しています。選択的前庭機能破壊はゲンタマイシン（GM）鼓室内注入療法のうち、鼓膜チュービングをして4日間連続して1日3回GMを注入する方法（shot-gun法）を中心に施行しており、2年間の成果については、平成24年10月4-6日行われた第22回日本耳科学会総会・学術講演会にて報告させていただいた通り、良好な結果が得られています。（メニエール病に対するゲンタマイシン鼓室内注入療法（shot gun法）の短期成績. 深澤 雅彦、三上 公志、宮本 康裕、斎藤 晋、阿久津 征利、肥塚 泉）

基礎研究については、内リンパ水腫モデル動物を用いた研究や、めまいモデル動物を用いた前庭代償の研究（Masahiko Fukasawa, Kazuki Okamoto, Manabu Nakamura, Koshi Mikami, Sonoko Shimada, Yasuhiko Tanaka, Izumi Koizuka, et al. Proteomic Analysis of the Rat Cerebellar Flocculus during Vestibular Compensation. Journal of Vestibular Research 2009; 19: 83-94 掲載）などが検討されています。

医局は、本年の入局者は1名でしたが、来年度も1名入局することが決定し、明るい話題も出始めました。しかしながら医局員が少ないという大きな問題は、いまだ変わりません。肥塚教授をはじめ、三上先生ならびに、日々の臨床を支えてくださっている医局の先生方には大変感謝しています。この場を借りて深く御礼申し上げます。またOBの先生方におかれましては、引き続き医局員一同、温かく見守っていただくとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。（助教 深澤雅彦）

## 《頭頸部腫瘍外来》

渡辺昭司、三上公志、斎藤善光



今年度になって外来担当メンバーが変わり、去年まで担当していた及川貴生先生が抜け、私、三上公志が務めさせていただいております。人数は変わらず渡辺昭司、斎藤善光、私の3名で毎週火曜日の午前中を中心に診療しています（渡辺のみ金曜午前も診療しています）。

以前より腫瘍班として、病棟では癌を含めた頭頸部腫瘍を診ておりましたが、外来となるとまた違ったもので、特に超高齢者や治療困難となった方の診療は多種多様であるため、いつも渡辺先生の手を煩わせてしまいます。今年は慌てて、頭頸部癌学会に参加しに一人で島根に行き、教育セミナーを受講したりと、なんとか皆に迷惑をかけないように日々励んでおります。

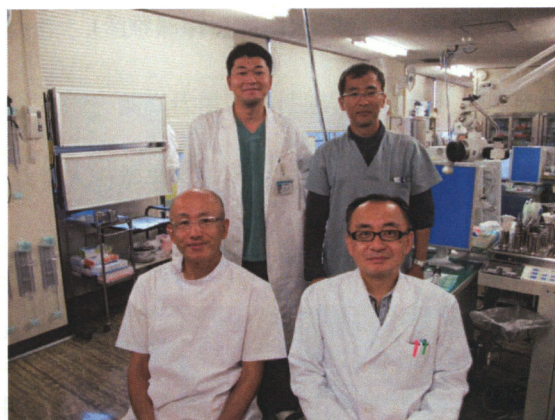
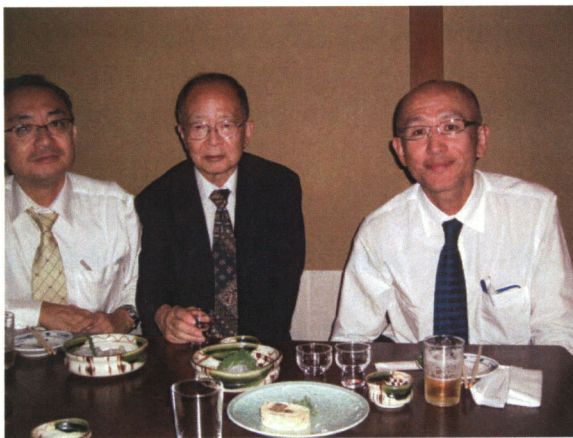
チームとして診療していることもあり、ハウレンソウ（報告・連絡・相談）は欠かさない様に心がけておりますが、自分としてはさらに自立できるよう頑張りたいと思います。

腫瘍班としては赤澤先生、春日井先生の2名も加え、実際には5名で頭頸部腫瘍を診ております。昨年1年間の手術件数は138例で、内訳はLMS：29例、頸嚢胞・甲状腺・唾液腺を含めた良性腫瘍：34例、頸部郭清術：13例、喉頭全摘術：5例、舌・上顎洞等の悪性腫瘍：17例、その他リンパ節生検・気管切開術・気管孔閉鎖術の手術：40例を行なっております。今後もチーム一丸となってより良い医療が提供できるよう努力してまいります。（助教 三上公志）

## 《聴覚外来》

宮本康裕、齋藤 晋、大橋 徹、越智健太郎、木下裕継、釧持 睦、阿久津征利

### 日本耳科学会に参加して



釧持 睦

こどもの国駅前が開業して8年経ちましたが、現在も大学時代聴覚班で行ってきた研究を自院休診日の木曜日を実験日として続けております。楽しみでもあるのですが、研究は時に厳しく、常にモチベーションを保ち続けるのは困難です。そこで今回は気分転換と刺激を求めて名古屋国際会議場で行われた日本耳科学会へ参加して

きました。この学会には、聖マリアンナから大橋先生、西野先生のメニエール病の蝸電図所見と深澤先生らのメニエール病のゲンタマイシン鼓室内注入が出題されておりました。

木曜日の朝、新幹線で1時間40分、名古屋に到着し早速、学会場に入りますと名古屋大解剖学の先生が内耳有毛細胞のイオンチャンネルの講演をしておられました。がちがちの基礎なので、つつい睡眠学習となっていました。残念。

午後に長崎大名誉教授岩堀先生による「聴覚器がたどってきた道」と題して、魚から哺乳類の聴覚器の仕組みと進化について講演がありました。魚の内耳は球形囊だけでラセン器がありません。では魚は、どのようにして音を感じているのかと申しますと、水中では音は水の振動となり球形囊の耳石で感じています。つまり、魚の聴覚器は耳石がごろごろと転がって音を感じているのです。僕はまったく知りませんでした。耳石がごろごろと転がるので、音源の位置を3Dで感じることができます。人間をはじめ陸上で生活する動物のほとんどは、音源を水平方向のみの2Dでしか認識できないので、その点では魚の方がすぐれているようです。聴覚器とは、視覚器、嗅覚器に比べ遅く発生し、最初は平衡覚器である膜迷路の片隅に入り込んでしばらくの間、おとなしくしていましたが、今では平衡器より大きな顔をして居座っているのが聴覚器であることを知りました。内容のある耳科学会に参加できてよい刺激となり、この感動について大橋先生と木下先生とで語り合いました。

## 《喉頭・音声・嚥下外来》

赤澤吉弘、春日井 滋



現在、喉頭外来は赤澤吉弘（平成10年卒）と春日井滋（平成13年卒）の2名で診療を行っております。これまでと同様水曜の午前中の枠をいただき、電子スコープとストロボスコーピー、音声機能検査を中心に診療を行

っています。喉頭外来を受診する患者は喉頭癌が最多で、その他に声帯病変や反回神経麻痺などの音声障害、気管疾患、咽喉頭異常感症、嚥下障害の方も多数おられます。

喉頭癌につきましては可能な限り喉頭温存を目指し、進行癌に対しても強力な化学放射線療法の導入（CDDP100mg/m<sup>2</sup>と放射線治療の同時併用）を行っております。再発病変に対する救済手術として部分切除術も積極的に検討しております。残念ながら喉頭全摘術を施行する運びとなった場合でも、きめ細かなケアにより患者さまの QOL 向上に努めています。反回神経麻痺に対しては披裂軟骨内転術と Gore-Tex を使用した甲状軟骨形成術 I 型の併用を中心に行い、良好な成績が得られております。年間数例の手術症例をもう少し増やしたいと考えています。嚥下障害に対しては耳鼻咽喉科、神経内科、言語聴覚士、栄養士とともに嚥下チームを結成し、各科から依頼のあった患者に対して VE、VF を施行し、毎週カンファレンスを行っております。当院は急性期病院であるため嚥下機能改善手術を施行する機会は多くはありませんが、適応があれば喉頭挙上術、咽頭収縮筋切断術を行います。喉頭疾患の患者さまのご依頼は水曜午前の喉頭外来までお願いいたします。

## 《中耳・副鼻腔・アレルギー外来》

宮本康裕、深澤雅彦、阿久津征利



副鼻腔・アレルギー外来（水曜日 PM2:00~4:00）

現在外来は、毎週水曜日の午後、宮本康裕、深澤雅彦、阿久津征利と宮部聡（非常勤）の 4 名で担当しております。診療内容は、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍の診断および治療を行っております。

アレルギー性鼻炎に対しては、HD およびスギの減感作療法、下甲介粘膜焼灼術（CO2 レーザー）、高周波凝固装置

（Celon）による下甲介粘膜下焼灼術の外来日帰り手術、鼻中隔矯正術、下甲介粘膜下甲介骨切除術まで、状態に応じて治療方法を選択しております。また、短期入院での後鼻神経切断術も行いますので、症例があれば是非ご紹介いただければと考えております。

鼻副鼻腔の症例に関しては、慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術が年間約 70 例行っており、特殊な症例に対してはナビゲーションガイド下での手術も行っております。前頭洞手術は、内視鏡下手術を積極的に行っており **Draff typeIII**手術も行っております。副鼻腔内視鏡手術は年間 120~150 例程度まで増やしていきたいと考えておりますので、是非ご紹介いただければと思います。また、鼻副鼻腔腫瘍（良性）に対する手術も行っております。血管腫に対しては、術前塞栓術を併用することにより良好な結果を得ております。外鼻切開を要する手術も行っております。

鼻副鼻腔の悪性腫瘍に関しては、腫瘍外来（毎週火曜日午前）で診療をおこなっておりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 関連病院だより

### 横浜市西部病院耳鼻咽喉科

部長：岡田智幸

本年も岡田、俵道、向出の3人体制です（助っ人募集中です。近隣の勝見直樹先生、尾谷良博先生、小宅大輔先生、信清重典先生待っています）助っ人の佐藤成樹先生、芋川英紀先生と釧持 睦先生に助言およびご指導を賜っております（大変、助かっております）。

平成24年4月より俵道先生は、主任医長となり、向出先生は、NST・嚙下カンファレンスのリーダー的役割を担ってくれております。私岡田はといえば、4月より西部病院産業医（英国留学時に更新できなかった日本医師会認定産業医としてではなく、労働衛生コンサルタントとして）を拝命し、月に一度の西部病院（職場）巡視が義務となりました。臨床研修センター副センター長（大学）と病歴部長（西部病院）も兼任しておりますので、今や何でも屋と化して日々を過ごしております。本業の耳鼻咽喉科をおろそかにせぬよう頑張りたいと思います（悲しい事に、収益は、日本の景気と同様右肩下がり傾向です）。

朗報です！初めて聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院臨床研修医（研修プログラム横浜西部）1年目の木村祐之先生（帯広で内科を開業されている8回生木村 聡先生ご子息です。バスケットボール部OBで、春日井 滋先生の後輩でもありますので、春日井先生勧誘よろしく願いいたします）選択科目として耳鼻咽喉科研修を1か月選択してくれました。是非、研修修了の暁には、耳鼻咽喉科に入局していただきたく、祈念して11月1日の3コマの写真を掲載します（写真1：釧持先生と木村先生そして大切な外来看護師の右から遠藤さん、村山さん；写真2：私岡田と木村先生そして大切な看護師さんたちとクラークの荒川さん；写真3：木村先生歓迎会での俵道先生と向出先生そして岡田）。

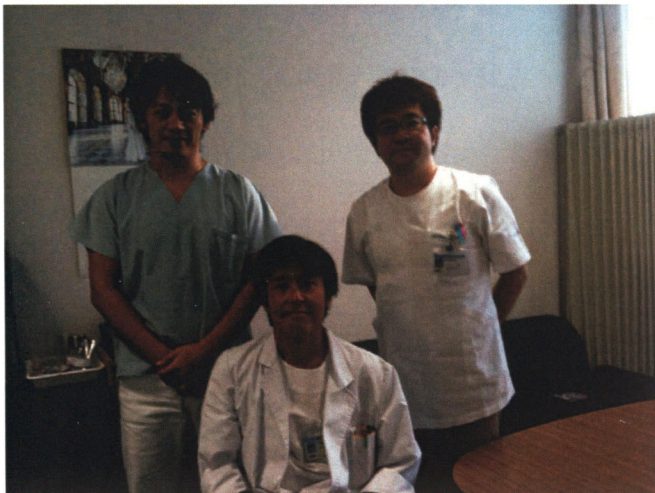
医局員全員で、木村祐之先生に声をかけていきましょう！





## 川崎市立北部多摩病院

部長：堤 康一郎



平成 24 年より 3 人体制となり診療に当たっています。当院の病床数は 376 床の中規模病院で地域医療支援病院の役割を担っております。また、登戸駅より直結しており、立地と病院理念から近隣の診療所や病院から患者様をご紹介頂くことも多く、地域医療に貢献できるように心掛け、診療にあたっています。

勤務体制および外来は下記の通りです。

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	手術	外来	外来
午後	外来 (予約制)	外来 (予約制)	手術 検査	手術	外来 (予約制)	

私、川上は平成 24 年 4 月から川崎市立多摩病院勤務となり、堤先生・中村先生の御指導の下 外来診療や手術執刀を数多くやらせていただき充実した日々を送っております。

これからも精一杯努力したいと考えております。御指導御鞭撻の程、宜しく願いいたします。



今年の4月から田中、角谷の2名で常勤をしております。月曜日の午後には肥塚教授に、昨年まで常勤であった平野先生が木曜日午前午後に、昨年に引き続き、富樫先生が水曜日午前中に外来診療を行って頂いております。横浜総合病院は、当科の出張病院としての歴史は長く、多くのOBの先生方が勤務をされた病院です。長く通院されている方を診察しますと、改めて「この先生も診療されていたのか！」と気付かされます。今回、私は5年振り2回目の常勤となりますが、前回診ていた患者さんも通院されており、赴任時は懐かしさを覚えました。また今年は、近くに新百合ヶ丘総合病院が出来、患者さんの減少も懸念されましたが、OBの先生方を初め以前からご紹介頂いている近隣の先生方からのご紹介も未だ多く、患者さんの目立った減少は今のところ無いようです。常勤医の先生、コメディカルの方々も当院で長く働かれている方が多く、働きやすい環境かと思えます。この歴史を繋ぎ発展させることが出来るよう日々精進したいと思っております。

個人的には、一昨年から引き続き獨協医大での研究を続けさせて頂いています。その結果は、中村先生が、第40回日本磁気共鳴医学会で発表されました。来年度は、耳鼻咽喉科関連学会での発表と論文製作を考えております。多くの先生方にアドバイスやご協力を頂いておりこの場をお借りして御礼申し上げます。有難うございます。

	月	火	水	木	金	土
午前	田中 角谷	田中 角谷	角谷 富樫	平野 中央手術	田中 角谷	田中 角谷(1、3、4、5週)
午後	角谷 肥塚	田中(2、4週) 角谷(1、3、5週)	検査	平野 中央手術	田中	

部長：山口央一

溝の口駅、武蔵溝ノ口駅より徒歩5分、商店街、繁華街の中を進むと、総合高津中央病院があります。溝の口は、過去には、大山街道の宿場町として栄え、今でも活気ある街です。東海道の裏街道として、徳川家康も通ったことがあるとかないとか。

患者さんは、地元の方はもちろん、場所柄からか、近隣の会社のサラリーマン、OLの方も多く、なかには出勤前らしき若い人なども来院します。

当院は、常勤医が私一人ため、手術は基本的に一人で可能なもの、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜チューブ挿入術、内視鏡的鼻内手術、喉頭微細手術、下鼻甲介粘膜焼灼術（高周波凝固術）などを行なっております。他、入院患者には、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、喉頭蓋炎、突発性難聴などの急性期疾患の治療を行なっております。私は、本年度より診療にあたっておりますが、当院は、約200床の中規模病院で、他科への対応、緊急入院などへの対応が、比較的スムーズであるように感じられます。

非常勤医師には、昨年より引き続き渡辺先生、今年度より深澤先生に診療していただいております。近隣には、加藤功先生、新谷敏晴先生が開業されており、たびたび御紹介いただいております。

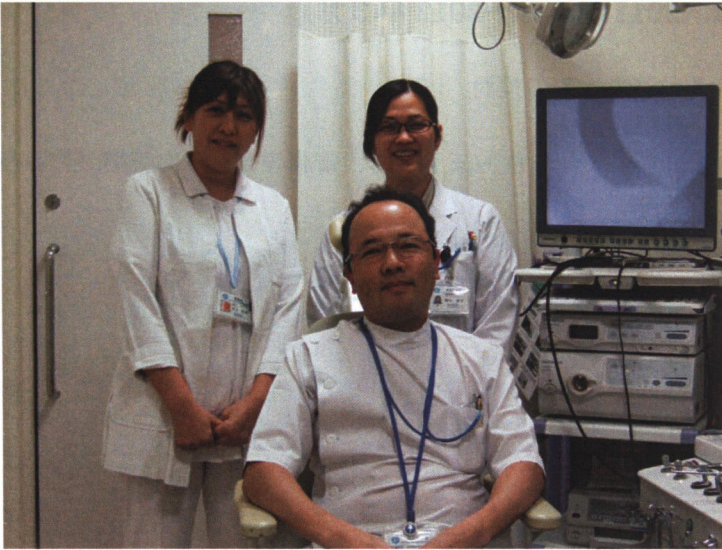
一人常勤で、今までとまた違った緊張感がありますが、地域医療への貢献のため、努力していく所存です。

	月	火	水	木	金	土
午前	渡辺	山口	山口	山口	山口	山口
午後	深澤	外来手術	予約外来	中央手術	予約外来	



昨年は何も変わらないことの喜びについて書きました。麻生病院は今年も何も変わらないと言いたいところでしたが、みなさんに馴染みのあるベテランのナースが退職し、院内の改装で外来の場所が変わりました。しかしながら、変化のない喜び多い職場環境を維

持すべく、日々研鑽しています。今年は私事のため、医局長を始め医局員のみなさんに多大なるご協力、ご迷惑をおかけしました。この場を借りて謹んで御礼申し上げます。



横浜医療センターは戸塚区、国道1号線の原宿交差点からすぐに位置しています。以前は交通渋滞のメッカともいべき場所で病院にたどり着くのも大変でしたが、原宿交差点の立体化により朝の渋滞の先頭から、最後尾に様変わりしました。

2010.4月にリニューアルオープンして3年目の

トピックは、2012.2月から病院より各科へ医療事務（樋口さん）が派遣され、耳鼻科では一人出張の私が独り占めできたことでしょうか。午前中は外来の電子カルテ入力補佐、午後は書類書き、データ入力、また積ん読に成り下がっていた学会雑誌のスキヤナによる自炊などに活躍してもらっています。正社員ではないので15時から16時半には帰宅してしまいますが、非常に助かっています。外来看護師は以前の担当（井上さん）がそのまま継続してくれています。同じ診療ブロックに皮膚科、泌尿器科、眼科があり、そちらの看護師が耳鼻科を手伝いにくることもあります。

昨年11月から今年10月までの手術件数は全身麻酔症例で46例、77件です。ESSが33件と最も多く、続いて扁桃摘12件、デビ11件、LMS8件です。周辺の耳鼻科を含む先生方からの紹介患者が少しずつ増加していますが、手術数は前年と比べると若干の減少になりました。欲張らずにぼちぼち増やしていけたらと考えています。

## 平成 23 年度 論文業績 (2011 年 4 月～2012 年 3 月)

- 舌扁平上皮癌の頸部郭清範囲と後発転移に対する救済率改善の検討  
渡辺昭司、大塚崇志、赤澤吉弘、春日井滋、向出光博、及川貴生、三上公志、齋藤善光、宮本康裕、肥塚泉  
耳鼻咽喉科臨床 104 巻 4 号 P273-278 (2011.4)
- BPPV に対する運動療法 ROM と CRP との比較  
北島明美  
Equilibrium Research 70 巻 2 号 P 85-87 (2011.4)
- 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科における喉頭麻痺症例 405 例の臨床的検討  
春日井 滋、渡辺昭司、齋藤善光、向出光博、赤澤吉弘、大塚崇志、及川貴生、三上公志、肥塚 泉  
聖マリアンナ医科大学雑誌 39 巻 1 号 P43-49 (2011.5)
- 体性感覚入力が半規管-眼反射に及ぼす影響  
三上公志、鈴木一輝、宮本康裕、深澤雅彦、肥塚 泉  
聖マリアンナ医科大学雑誌 39 巻 1 号 P27-33 (2011.5)
- 進行喉頭癌の検討  
赤澤吉弘、渡辺昭司、春日井 滋、向出光博、大塚崇志、及川貴生、三上公志、肥塚 泉  
耳鼻咽喉科臨床 104 巻 6 号 P447-453(2011.6)
- 持続するめまい感の検討 アンケート調査をもとに  
北島明美、肥塚 泉  
Equilibrium Research 70 巻 3 号 P 159-166 (2011.6)
- めまい診察の Up to Date  
肥塚 泉  
練馬区医師会便り 521 号 P28-35 (2011.8)
- 【私の処方箋】 耳科領域 片頭痛に伴うめまい  
肥塚 泉

JOHNS 27 卷 9 号 P 1336-1337 (2011.9)

- 平衡障害の評価とリハビリテーション

肥塚 泉

日本耳鼻咽喉科学会会報 114 卷 9 号 P 784-787 (2011.9)

- ここに注目！知っているようで知らない疾患のトリセツ

肥塚 泉

Credentials 39 号 P 14-15 (2011.11)

- 【治りにくい症状への対応】治りにくい浮動感・めまい

肥塚 泉

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 83 卷 13 号 P 997-1002 (2011.12)

- 【環境・生活習慣（病）・スポーツと耳鼻咽喉科】環境と耳鼻咽喉科疾患 重力

肥塚 泉

JOHNS 27 卷 12 号 P 1857-1860 (2011.12)

- 【めまい-Vertigo, Dizziness or Else?】前庭動眼反射と温度刺激検査

肥塚 泉

Clinical Neuroscience 30 卷 1 号 P 53-55 (2012.1)

- 【めまい診療の最前線】乗り物酔いと地震酔い

肥塚 泉

日本医師会雑誌 140 卷 1 号 P 2062 (2012.1)

- 【頭痛・めまい 実地医家のための日常診療のすべて】トピックス 耳石とめまい

肥塚 泉

Medical Practice 29 卷 3 号 P 465-466 (2012.3)

## 科学研究費

- 肥塚 泉 基盤研究 (C) H24～H26 総計 5,000(千円)

「めまいリハビリテーションへの応用を目的とした耳石—眼反射の可塑性の検討」

- 中村 学 若手研究 (B) H24～H26 総額 4,800(千円)

「7テラスMRIによるマウス内リンパ水腫の観察および分子生物学的解析」

- 深澤 雅彦 若手研究 (B) H23～H25 総額 4,800(千円)

「片側内耳破壊ラットの脳片葉プロテオーム解析」



## 国際学会探訪記

第 27 回国際バラニー学会 (27<sup>th</sup> Barany Society Meeting in Uppsala) に参加して

西部病院 岡田智幸



私の研究のメインテーマは、先天性眼振 (CN) と CN の発生機序の解明です。少々大それた代物ですが、今回は ‘Congenital nystagmus may be not conjugate eye movements in our two cases?’ というタイトルでポスター発表をさせていただきます。従来、CN は、共同性眼球運動 (conjugate eye movements) であると見なされておりましたが、先人達の報告の中にはどうもそうではないと言える文献が散見されます。ただし、その証明は、誰もしておりません。今回、2 例報告ではありますが、CN はある種の融像障害が fly test (自覚的立体視検査) で確認され、正面視における左右眼球運動の赤外線フレンツェル眼鏡による同時記録を Image J (解析ソフトウェア) にて解析したところ、左右眼の瞳孔中心の位置は、健常成人とは異なり、相似形ではなく、微妙にズレていることが判明しました。と言うことは、CN では、立体視ができていますので、脳内で、立体視がなせるよう再構築しているものと考えられます。London 留学当時の crowd である Berlin の Prof Thomas Lempert (写真 1) や Dr Mikael von Brevern と discussion ができ、 ‘You are right’ という言葉をいただきましたので、この道筋で、研究をさらに進めていきたいと思っております。Uppsala 市内での「希望の虹」をバックに国立東京医療センター五島史行先生 (慶大卒) と共に (写真 2)。

## いざトロントへ

春日井 滋



私は渡辺先生、齋藤善光先生とともに医者人生（12年目）で初めて国際学会（The American Head and Neck Society）に行かせていただきました。今年の7月21日から5日間、カナダのトロントで開催されました。抄録を出すまでは英語が非常に苦手なため、海外の学会はむしろ行きたくない気持ちでいっぱいでした。しかし渡辺先生のおかげで無事抄録を提出し、どうにかポスターを作った後はもはや観光気分です。トロントやナイアガラの旅行雑誌を何度も読み、付焼刃的ですがスピードラーニングも始めました。

学会は、隣のエジプト人が私のポスターを貼るスペースの1/3を占拠しており、渡辺先生が事務局に殴り込みしてくれて、どうにか無事に貼ることができました。さすが渡辺先生です。ポスターの前で記念撮影した後は完全に観光気分です。トロントは気候も良く、それほど大きな都市ではないため、徒歩でいろいろ観光しました。また世界三大瀑布の1つのナイアガラに行き、壮大なスケールと水しぶきに圧倒されました。帰りにニューヨークに寄り、セントラルパークを3人で走り、ミュージカルを見て、最後にニューヨークステーキをたらふく食べて帰ってきました。ニューヨークはもっと危険な場所と想像していましたが、渋谷レベルの人込みで、夜中まで観光客であふれていました。ちなみに英会話に関しては、スピードラーニングを聞き流しても、真剣に聞かないと役に立たないことが分かりました。

最後に国際学会という貴重な経験をさせていただき、肥塚教授をはじめ諸先生方本当にありがとうございました。

## 第 15 回四門会理事会議事録

1. 会員数内訳（平成 23 年 12 月 4 日現在）

総会員数：126 名  
うち現医局員 26 名

2. 会員異動

桑原 大輔 平成 23 年 3 月 31 日 退職  
杉山 裕 平成 23 年 3 月 31 日 退職  
鈴木 一輝 平成 23 年 3 月 31 日 退職  
大塚 崇志 平成 23 年 3 月 31 日 退職

3. 新入会員

角谷 知泰 平成 23 年 7 月 1 日 入職

4. 退会会員

なし

5. 会計報告（平成 22 年 10 月～平成 23 年 9 月）

平成 22 年度繰越金	¥2187346	
	収入	支出
平成 22 年度会費	¥ 940000	
四門会誌第 18 号		¥ 143626
四門会賞		¥ 50000
通信運搬費		¥ 26644
慶弔費		¥ 23721
秋山・北山日当(2 年分)		¥ 40000
振り込み手数料・		¥ 210
利息	¥ 354	
合計	¥ 940354	¥ 284201
次年度への繰越金	¥ 2843499	

6. 平成 23 年度役員人事

会 長 肥塚 泉  
副会長 故) 菊池原基敬、岩武博也  
推薦理事 肥塚 泉

名誉理事 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹  
理事 飯田 順、岩澤 寛、芋川英紀  
上杉恵介、越智健太郎、小野泰三郎  
勝見直樹、菊池原基敬、木下裕継  
黒田寿史、劔持 睦、小松崎靖、  
佐久間惇、佐々木祐幸、佐藤成樹、  
新谷敏晴、関 良武、高橋 姿、  
堤 康一郎、中島博昭、西野裕仁、  
服部康介、南 定、宮部 聡、  
渡辺昭司、渡来潤次  
監事 石倉幹雄、岡田智幸  
事務局長 宮本康裕

敬称略、50 音順

7. 四門会賞

宮本 康裕

8. 平成 24 年度日時

平成 24 年 12 月 2 日（日）

9. その他

① 副会長の選任に関して

先日行われた臨時理事会において、岩武博也先生が副会長に選任されました。

② 新会長の選任に関して

先日行われた臨時理事会において、岩武博也先生、渡来潤次先生が推薦されました。渡来潤次先生が辞退されましたので岩武博也先生の会長が決定しました。同時に会長の推薦により、渡来潤次先生が副会長に決定しました。

会則の変更により、副会長を 2 名とすることになりました。

③ 退会希望者

漆畑保、菊池仁の 2 名より退会希望の届を受理しました。

④ 日本めまい平衡医学会総会の主催にあたって

平成 26 年の第 73 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会を主催することが内定しております。会場はパシフィコ横浜を予定しています。

# 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

## 第1章 総 則

### 第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

### 第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

## 第2章 目的および事業

### 第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

### 第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

## 第3章 会 員

### 第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

### 第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

### 第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

## 第4章 役 員

### 第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

### 第9条 (役員任期)

- (1) 本会の役員任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。  
補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

### 第10条 (役員職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

#### 第11条(役員を選任)

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。  
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。  
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

### 第5章 会議

#### 第12条(総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

#### 第13条(理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

### 第6章 事務局

#### 第14条(事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

### 第7章 会計

#### 第15条(本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

#### 第16条(会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

### 第8章 会則の改正

#### 第17条(会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

### 第9章 その他

#### 第18条(その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

**第19条（本会則の発効）**

- 本会則は平成9年12月1日から発効する。
- 本会則は平成12年12月3日から発効する。
- 本会則は平成16年11月28日から発効する。
- 本会則は平成18年12月3日から発効する。
- 本会則は平成24年12月2日から発効する。

**聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則**

**第1条** 本細則は会則第18条によりこれを定める。

**第2条（会費）**

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
  - ・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円
  - ・その他の会員は年額10,000円
- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

**第3条（役員の選出）**

- (1) 役員の定数は、理事 15名以上、監事2名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。

**第4条（慶弔）**

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

**第5条（本細則の発効）**

- 本細則は平成9年12月1日から発効する。
- 本細則は平成11年11月28日から発効する。
- 本細則は平成12年12月3日から発効する。
- 本細則は平成16年11月28日から発効する。
- 本細則は平成17年12月4日から発効する。
- 本細則は平成22年12月5日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

四門会 第20号 2012年度

発効日 平成24年12月発行  
発行者 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1  
聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会  
電話：(代表) 044 977 8111 (内線) 3261  
会長 岩武 博也  
編集者 渡辺昭司 北山 愛  
印刷所 株式会社 杏林舎



